



会 報



安 来 節

YASU

GI

BUSHI

発行所 安来節保存会

☎ 692-0064

島根県安来市古川町 534

TEL 0854-28-9988

FAX 0854-28-9393

https://www.y-hozon.com/

E-mail: admin@y-hozon.com

上位昇格者

准名人(三名)



吉野 和 夫
唄の部
(本部道場)



野 坂 恵 子
絃の部
(神 門)



野 坂 亮 孝
絃の部
(湖 陵)

大師範(六名)

唄 金 築 章 (本部道場)

絃 岩 田 彩 代 (本部道場)

錢太鼓 入 江 訓 子 (本部道場)

唄 柴 田 みどり (益 田)

絃 出 雲 美枝乃丞 (益 田)

踊 小 谷 実 (松 江)

(代議員会資料名簿順)

10月31日に開催された安来節保存会代議員会において、令和8年度の上位昇格者と表彰者、感謝状贈呈者が報告されました。
今回、准名人に3名、大師範に6名の方が昇格されました。おめでとうございます。
来年の1月12日(月・祝)の唄い初め会において、免状・表彰状・感謝状の授与と昇格披露を行います。

会員表彰者

(二十八名)

小倉 智之 (本部道場)

佐々木 みどり (本部道場)

石井 静恵 (本部道場)

国重 菜津美 (本部道場)

森岡 光明 (石見)

坂田 能久 (加茂)

山田 重治 (湖陵)

桑原 洋子 (湖陵)

山根 守男 (平田)

常松 ヒサ子 (益田)

篠原 洋子 (益田)

齋藤 初江 (松江)

石井 美代子 (東伯)

吉田 愛子 (鳥取)

浅田 信夫 (広島)

部尾 涼子 (広島)

原谷 弥子 (広島)

佐伯 一子 (神戸)

西本 照司 (西戸)

古藤 敏司 (西戸)

伊藤 明具 (西戸)

吉田 麻里 (西戸)

濱田 正末 (静岡)

福沢 美和 (大戸)

鈴木 二美 (大戸)

田中 美和 (大戸)

感謝状贈呈者

(二名)

高原 淳文 (北陽)

(代議員会資料名簿順)

新役員決定

任期 令和7年10月1日～令和9年9月30日

このたびの役員改選に伴い、新役員が決定しました。

安来節がますます普及・発展するよう新役員の方々のご尽力に期待し、会員の皆様のご協力をお願いします。

専務理事 内田 修次

副会長 大久佐 明夫 (副市長)

岩崎 勉 (市議会議長)

宇山 富之 (市政推進部長)

常務理事 渡部 孝夫 (審査長)

出雲 啓之助 (指導部長)

吉野 和夫 (本部ブロック)

中尾 俊介 (出雲ブロック)

西村 栄市 (石見ブロック)

内田 卓実 (市議会議員)

理事 福井 加代子 (市議会議員)

矢倉 義法 (本部ブロック)

一字川 雅彦 (広島ブロック)

田村 実 (関西ブロック)

森脇 忍 (関東ブロック)

富田 郁徳 (斐川)

高野 要 (本部道場)

資格審査員 渡部 孝夫 (審査長)

濱崎 正人 (副審査長)

指導部員 出雲 啓之助 (指導部長)

富田 光雄 (副指導部長)

妹尾 なおみ (副指導部長)

安達 順吉

小村 顯二

渡部 泰孝

安達 英三

安達 雅宏

福太郎

三代目

四代目

五代目

生きがいをもって楽しく活動



専務理事

内 田 修 次

保存会の現状

現在の支部数は五十三支部、会員数は約一、八〇〇名となっています。支部会員が二十名以下の支部が二十八支部と半数以上を占めています。会員数の減少に伴い、支部の活動がままならない支部もあると聞いており、ご苦労が多いと思います。そして、保存会事業を進めていくためには支部の活動が重要な役割をしています。また保存会の決算状況も近年厳しくなり、今後会員の皆様にはご負担をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。

「移動研修会」について(新規)

熟年師範・師範研修会受講が予選会出場条件になっています。遠方から会場までの移動が負担になっている会員のために、「移動研修会」にて受講できるように会員の負担軽減策として新たに提案しています。支部の考えで、十月から四月までの開催日や会場も選べることにしています。令和九年度(令和八年十月一日)から予定していますので、支部内での活発な議論を期待します。

指導部による動画作成について

現在、指導部による動画作成が計画されています。これは一般の人に安来節に興味を持ってもらうために、安来節保存会 유튜브チャンネルに動画をアップして、特に若者をターゲットにしたユニークな内容となる予定です。出来次第、少しずつアップされますので、楽しみにしてもらいたいと思います。

最後に

保存会の会員数も減っている状況ですが、若い会員の加入により活動が活発になっている支部もあります。そして会員の方が、「生きがいをもって楽しく活動」していただくことが保存会の目的でもあります。年三回発行している会報は会員の皆さんの会報です。日頃感じておられることや支部の活動など、会報への投稿をお待ちしております。

支
部
情
報

安来節ステージ@大阪・関西万博2025

関西支部 吉 田 麻 里



2025年9月8日～12日の5日間「大阪・関西万博安来節ステージ」が行われました。ポップアップステージ北で、5日間ともお天気に恵まれ、総勢200名以上が楽しく出演できた事を嬉しく思います。また、初日にNEO安来節の方々に参加して頂きました事、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

最初は1日実施の企画書でしたが、万博事務局から5日間と打診され、東海支部長、和歌山支部長にご協力いただき、盛大な企画となりました。三支部とも支部長のもと一致団結した見事なステージでした。

大阪・関西万博の安来節出演動画をご覧になりたい方は、動画投稿サイトYouTubeの「安来節保存会関西支部チャンネル」でご覧になれます。右記のQRコードを読み取り、視聴する事もできます。



関西支部・NEO安来節のみなさま



和歌山支部のみなさま

東海支部のみなさま

関西支部のみなさま

三支部長のメッセージ

● 関西支部・高木支部長より

(九月八・十・十二日ステージ担当)

『万博に來られていられるお客様方に私たちの舞台を觀ていただくなど、おがましいことは考えず、自分たちが楽しんで、素敵な万博の思い出を作ろう！をコンセプトに練習も頑張りました。そして、練習の甲斐もあり沢山の方が觀てくださり、どうしよう無い体験も毎回盛況で、スペイン館からは「是非パビリオンで踊って欲しい」と依頼を受け披露して参りました。

終わってみれば、あつという間でしたが、出演者全員が万博に出られて良かった、楽しかったと口を揃えて言ってくれるので本當に出演して良かったです。こんな経験ができるのも安来節をやっているからこそ、安来節保存会があつてこそだと感謝いたします。ありがとうございました。それにしても暑かったですね、関西支部の皆さんお疲れ様でした。』

● 東海支部・中村支部長より

(九月九日ステージ担当)

『東海支部は中村民謡会との合同企画旅行として、公演前に貸切觀光バスにて五〇名で万博会場へ向かい、下見と見学、当日も公演後には万博を満喫して帰りました。当日現地集合の五名を合わせ総勢五十五名が舞台に出演し、どうしようもない中心に、津軽三味線曲弾きや津軽手踊りを交えて九十分公演しました。猛暑の中、多くの皆様より声援をいただき、公演も含めて心に残る楽しい万博旅行の思い出となりました。』

● 和歌山支部・藤原支部長より

(九月十一日ステージ担当)

『みかん色の着物でお馴染みの和歌山支部と和歌山県民謡連合会の会員、総勢二十一名が、安来節と全国民謡の共演で万博に出演。どうしようもない体験はもろのこと、唄もステージ前に集まった観客の皆さんに体験してもらい、最後は大合唱。唄いひびかす安来節。』

「唄って民謡、聴いて民謡、踊って民謡、触れて民謡」暑さも吹っ飛ばさう楽しんで、こんなステージに立つことができて最高でした！出演者全員が万博を満喫でき、幸せなひとときでした。』

私と安来節



素晴らしい 方々との出会い



小谷 幸 洋
(東伯支部長)

初めて安来節に出会ったのは22年前、バンドをしていた時に音響で頼まれた祭りでの事でした。その時、民謡に全く興味がなかった

自分が安来節と言うものに出会わせていただき、人生を大きく変えてもらうとは思ってもみませんでした。

安来節を始めた時、今まででいたギターとの両立は無理だと思いい、ここから三味線が始まりました。始めた頃は「どこの支部ですか？」と聞かれ、「東伯支部です」と言っても、「東伯支部は何処ですか？」と聞かれていました。それが今では若い子達が頑張ってくれ、良い成績を残してくれて、少しは東伯支部と言う名前を知ってもらえる様になったと思います。教室も9歳から84歳と幅広く、人

馬鹿にされて居ました。

人生が変わった 安来節



澤田 詩 音
(東伯支部)

私は、小学4年生から安来節を始めました。

学校では人と話す事も出来ず友達も居ませんでした。勉強も運動も何も出来なくて、先生からも先輩からも良く思われていませんでしたし、年下の子達にも何も出来ない先輩で、いつも

生の先輩方が色々礼儀作法等のご指導を下さり本当にありがたいです。

伝統ある安来節の素晴らしいは勿論ですが、自分が一番安来節に出会えて良かったと思う事は、安来節をしていなかったら絶対に出会えてない素晴らしい方々との出会いだと思っています。沢山の先生方、先輩、仲間達、人生の最大の宝物だと思っています。この安来節の素晴らしいさを、今の子供達に伝えられる様にこれからも安来節を頑張っていこうと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

これから同級生の子とも少しずつ話せるようになりました。今では演芸で司会をさせていただけの程になり、教室では銭太鼓の指導を任されるようになりました。

私の親も最初は私になんの期待もしていなかったと思いますし、安来節をして私がここまで自分に自信を持てるものが出来るとは思っていなかったと思います。今では親も安来節に理解があり、すごく力を貸してくれます。

教室の皆さんや先生方のおかげで、今こうして楽しく安来節をでき、人と話すことが少しずつですが出来るようになりました。安来節に人生を変えてもらい本当に安来節を始めてよかったと思っています。すごく救われました。

三味線から 始まる安来節



糸賀 奈穂 美
(神門支部)

私は、島根県浜田市から一時間以上登る山間地秘境の村で生まれました。隣近所は谷向こうにあり、学校までの道のりは大声で歌いながら通っても怒られることもない程の田舎でした。子供の頃、耳にした民謡は、盆と正月に親戚のおじさんが集まり、お酒片手に花笠音頭や炭坑節を唄うので、子供達は手拍子を打たされて聞いていました。

そんな私の安来節との出会いは、孫が小学二年生から習い始めた銭太鼓でした。当時は練習の付き添いで、銭太鼓やどじょう堀い踊りで、安来節を聞いていました。今

では、すっかり安来節に夢中になっていますが、そのきっかけは十一年前に主人が義母にお願いして三味線を譲ってもらった事から始まりました。時間にして十分くらいでしょうか、まるでギターを弾くかのような姿を見せた主人は、「あなた、どうぞ」と両手で三味線を持ち、私に差し出してききました。初めて手にした高価な楽器に戸惑いながらも、少し嬉しくて、ふと思いついたのが銭太鼓で三味線を弾いていた人がいたという事です。この三味線を何とかしたい

と思い、安来節を教えておられる吉川先生に相談をしたところ「それは良い事だ。三味線を持つて窪田教室に来てみなさい」と教えていただきました。早速、教えていただいた神門支部窪田教室に行き、安来節の唄、三味線、鼓の練習を見学させていただきました。聞いているだけでワクワクしたことを今でも覚えています。教室長の吉川先生が、「自分は三味線を教える事が出来ないから」と、紹介してくださったのが、今は亡き富田英好先生でした。初心者なのに、先生は「無理にではないが教室で教えるには時間がないから、良ければ家に来れば良い」と誘っていただきました。先生は、私のやる気スイッチを押してくださいました。休みの日には一山、二山を越えて三味線が弾けるようになった一心で、お宅にお邪魔してご指導いただきました。また、奥様にも気が掛けていただき、練習後のお茶会は本当に楽しく通うのが苦ではありませんでした。

私達に気づかれた吉川先生は、新しい指導者を探してくださいました。どんな方なのか全く存じ上げず、教室に来られたお兄さんに「私は富田英好先生に教えていただいた三味線の弾き方を続けたい」と、お伝えしたところ、「大丈夫です。続けましょう」と、あっさり。そのお言葉を聞いた時の嬉しかった事。

吉川先生と英好先生の奥様のお蔭で窪田教室は、陶山先生(三代目福太郎先生)にご指導いただく事になりました。先生は、生徒が理解できるように丁寧に説明、指導してください、子供にも大人にも人気です。その頃から、小学生の唄、絃、鼓を習う子が増えました。また、銭太鼓の指導も始まりました。また、銭太鼓師範昇格者も出ました。親子や兄弟で習う人もいます。私も、その一人で我が家の孫娘も先生に習い、大会に出場できました。私は先生指導の下、孫と同じ舞台に立ち、銭太鼓の地方として大会で三味線の応援をする事ができ、これ以上ない幸せ！

今、義母の三味線は、ひ孫が弾き、私は英好先生の形見の三味線を弾かせていただいています。私の元に届いた三味線のお蔭で、安来節に出会い、素晴らしい仲間と先生方にめぐり会いました。五十代から三味線を習う事を応援してくれた主人と家族に感謝と切磋琢磨する窪田教室のみんな、先生、これからもよろしく願っています。



私と安来節



田中笑子
(神門支部)

今年五月に、唄の師範の免状を戴きました。

もともと私は、演歌好きの父の影響もあり、幼少期から歌謡曲や演歌に親しんでいました。その中で自然と歌うことが好きになり、どんな時でも歌を口ずさむことで心が癒されていました。そんな私も、二十年前に父が他界した時に

は歌を口ずさむこともできないほど落ち込みました。しばらくして（私が歌えなくなると、父は悲しいだろうな）と思うようになり、半ば強制的に気持ち切り替えて歌謡教室に通うことにしました。

歌の指導を受け、上達することに喜びを感じるように気持ちも変化していきましたが、それも数年経つと子育て等に追われ、歌謡教室へも通わなくなりました。再び歌を口ずさむだけの日々の中で（もつと歌が上達しないかな）と考えている時に、地元で開催されている安来節窪田教室に出会いました。吉川先生に「民謡は全く分からないので、ただ歌が上達したいだけの目的でも良いですか」とお尋ねしたところ、快く教室に迎えていただきました。

こうして始まった『私の安来節』

は、早々に前途多難な状況でした。これまで〈歌謡曲は歌手が歌う通りに〉〈中学の合唱部では楽譜通りに〉と歌い方を覚えてきた私。音符もなく『しおり』を頼りに唄う安来節の覚え方は私にとっては至難の業でした。打ち手によって変わる絃の音も覚えづらく、唄い出しのタイミングが全く掴めません。正直なところ、毎回指導していただく先生方の表情や視線を読み取り予測しながら唄い続けていました。こんな調子の生徒なので、この度、師範の免状が戴けたのは、三代目福太郎先生の的確で根気強い指導あってこそ……と深く深く感謝しております。お陰で最近

は小6になる次男からも「前に比べると最近のお母さんの唄は踊りやすくなったよ」と、お褒めの言葉も戴けるようになりました（笑）。

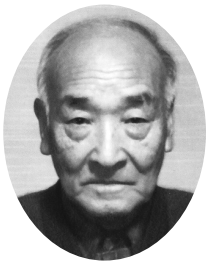
また、私がここまで続けてこられた理由には「窪田教室」の存在がとても大きいと感じています。私が入った当初、私より少し年上の方が数名いらつしやるような教室でした。窪田小学校の体験学習をきっかけに「踊・銭太鼓」を始める子供たちも多く在籍していたが指導日が違っていたので、翌年に長男が「踊」を始めるまでは教室の子供たちとの関わりはありませんでした。それから間もなく、教室の指導者として三代目福太郎先生と和田俊助先生をお迎えすると、次第に「踊」を習っていた子供たちや、お母さん方が様々な種目を始めるようになり、教室は一気に賑やかになりました。今では、教室の若手だけで公演ができるほどの上達ぶりです。教室の中では古株の位置づけとなった私

も、目まぐるしい成長を続ける若い子たちのひたむきに刺激を受け、いつも新鮮な気持ちで練習に励むことが出来ています。特に「踊・銭太鼓」のメンバーが多い窪田教室では有難いことに、地方を務めさせてもらう機会もたくさんあって、チームの一員として参加していると自分も若くなったような錯覚があり、とても楽しく充実した時を共に過ごさせていただいています。

唄の上達を目的に始めた『私の安来節』。今では、安来節を通して関わる皆様方との出会い、そしてその過程で体験する一つ一つが、すべて私の元気の素になっています。今後も安来節との出会いに感謝の気持ちを忘れず、引き続き精進して参ります。

会員の声「コーナー」

先人の技術に思う事



渡部二郎
(松江支部)

安来節にはまって半世紀、最近思う事は、先人の方々の技術について。

今の保存会では、昔の技法がダメとなっているものはいくらかあるようですが、個性のある技法が排除されたり、行われなくなっているように思います。その中

のいくつかの例をあげてみます。先の師範研修会の時にありました。

一、唄の一節の終わりと絃のおとしが合わなかった。唄が短く、絃が一拍遅れて終わった。いわゆる「あとおとし」、指導員の説明では、「唄の一節は前段六拍、後段七拍の計十三拍。これに合わせて絃をおとす事」この時、唄が短く、絃は基本通りの拍数で終わったようだ。昔、私達が習った事、「唄の長い人、短い人があるの、良く聞いて唄が終わってからツルテンとおとすように」と、今これをやったら二節の唄い出しが出来ない人があると思う。

二、風鈴の歌詞で今は、「枕を探しハテナ」の「ナ」の所で三味線をドンと打つ

ようになっていく。昔は、「ハテナ」「やドン」と一拍あとで「ドン」と打つ方法でも良かった。これも今やったら三節が唄い出せない人があると思う。

三、三味線、一節の終わりにおとしをかけず「ひきながし」という技法で十四のツボまで下りながら上のツボに上り二節が終わると「エヤトンツテン」と三節の出しにそなえる。これ、故二代目渡部吉名人が良く使う技法であった。これも今する人はいないようである。

以上の技法、今の保存会の基本方針から外れるかもしれませんが、何らかの機会に、これらの技法を実演してみてはどうか、そして保存会において、技法の復活を願うところです。

計 報

唄名人、上代安夫さん（九十二歳）が令和七年三月十六日逝去されました。昭和三十六年に安来節保存会に入会され、資格審査員平成十二年〜令和元年まで努められ、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

三宅良貞さん（岡山支部長、八十五歳）が令和七年十月八日逝去されました。三宅さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

森川 勇さん（津和野支部長、八十三歳）が令和七年十一月一日逝去されました。森川さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

安来節しおり・会員証の価格改定のお知らせ

会員の皆様には、大変心苦しいお知らせとなりますが、近年の急激な物価高騰に伴い、安来節しおりと会員証の価格を改定させていただくこととなりました。また、会員証の再発行につきましても、別途料金を頂戴させていただきます。会員の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

- 会員証（令和8年10月1日発行分より）
700円 → 800円
※再発行の場合は、1,000円
- 安来節のしおり（令和8年度版より）
800円 → 1,000円

感動を呼ぶ 音色と 響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁ホ三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>